

株式会社 OverTheClip 様

2023年4月 運用開始

株式会社 OverTheClip 様は、今年1月に発売された JBL PROFESSIONAL のパワード・ラインアレイ・スピーカー SRX900 Series を日本国内で初めて導入されました。埼玉県蕨市の事務所兼倉庫にお邪魔して、代表取締役で音響エンジニアの佐川圭太氏にお話を伺いました。



インタビューにご協力いただいた株式会社 OverTheClip 代表取締役で音響エンジニアの佐川圭太氏

株式会社 OverTheClip 様は音響・照明の両方を扱っており、Zepp などのライブハウスから地方のお祭りや学園祭など、音楽系からイベントまで幅広くサービスを提供されています。2020年設立で若いスタッフが多く活気のある PA 会社様で、社員全員が音響と照明の両方に対応できるスキルを備えているとのことでした。

——日本国内での SRX900 Series 導入第 1 号です！導入に至った経緯を教えてください。

もともと JBL PROFESSIONAL VTX-A Series を所有しているのですが、VTX-A Series のひとつ下の規模をまかなえるコンパクトでパワーのある製品を探していました。そんな時に SRX900 Series の情報を知ったので、すぐに導入を検討しました。



左：SRX900 Series 右：VTX-A Series

——実際にお使いいただいていたいかがですか？

ひとりで設営できるくらいコンパクトで軽量です (SRX906LA : 16.8kg)。

また少ない電源容量で駆動できる点がとても良いですね。2/1 対向のシステムなら 15A を 1 系統でまかなえます。消費電力が少ない割に大音量が出る、今までにないスピーカーだと思います。

キャンプ場で行われた DJ イベントで、SRX900 Series を 4/2 対向で運用したことがあります。屋外なので当然仮設電源です。電源容量ギリギリの中でどれだけ音量が稼げるかが課題でしたが、実際には DJ イベントに必要とされる低域を十分に賄え、遠くまで音を飛ばすことができました。

屋外でも十分活用できる製品だと思います。

——6.5 インチの "SRX906LA" を選択した理由は何ですか？

まずスタンド立てできる点が魅力的でした。

2/1 対向のシステムではスタンドで高さを上げられること、またひとりで組み立てることができるという点が決め手となって "SRX906LA" に決めました。



——少人数の現場での運用はいかがですか

小さい現場だと予算の問題もあるので、極力少人数…ふたりくらいで行くことも多いです。

でもその場合でもこれだけコンパクトだと仕込みもとても楽です。

最近女性スタッフも多くなっているので、軽さは大きな武器です。SRX906LA はコンパクトで持ちやすいので、2 段目くらいまでは女性スタッフひとりで積むこともできていますね。

パワードスピーカーなので、パッシブと比べると仕込み時間を短縮できる点も、人数が少ない現場ではとても助かっています。



—Performance ソフトウェアはお使いいただいていますか？

はい、基本的には有線で PC につなげて使っています。

有線での接続が安全性も高いと思っているのですが、今度 iPad での運用にもチャレンジしたいと思っています。



※ Narciss Presents 「漆黑 Fes.」 埼玉会館

Performance ソフトウェアはショートカットキーで各パラメーターに移動できるのはとても使いやすいですね！ただ、実は "Performance Manager" を長く使っているのもので新しい "Performance" ソフトウェアにはまだ慣れないところがあって…。今後使っていく中で新しい発見があるかと期待しています（笑）

—VTX-A8 も所有されていますが、SRX906LA とはどのように使い分けていますか？

VTX-A8 は 12 発所有しています。



左：VTX-A8(W761 × H225 × D375mm、30kg) 右：SRX906LA(W507 × H22 × D420mm、16.8kg)

現場の規模感はもちろんですが「SRX900 はキャラバン」「VTX-A はトラック」など可搬性も考慮して使い分けています。

そのため SRX900 Series 用のケースはキャラバンに合わせて設計しました。

SRX900 Series は（パワードのため）アンプが不要なので、キャラバンくらいコンパクトな車でも十分移動できます。

—SRX900 Series の音質について教えてください

バイアンプ駆動なので、ローからハイまでクリアなサウンドだと思います。

今はやりの音というか、前から後ろまで均一で、遠くまでハイが飛ぶ印象です。

会場後方でもハイが減衰しないので、屋外でも、距離がある現場でも十分対応すると思います。

特にサブに関しては、前に出てくるような芯のあるロー感があります。

4/2 対向で運用した現場では、ハイボックスよりもローが前に出たので、ローを少し下げてバランスを取ったことがありました。

—VTX との音の印象の違いありますか？

実は、VTX-A8 と VTX-B18 の組み合わせでサブが足りない時に SRX918S を追加したことがあります。ビジュアル系バンドのライブだったのでロー感がたくさん必要な現場でした。場所は埼玉会館（客席数 1,315 席）です。



※ Narciss Presents 「漆黑 Fes.」 埼玉会館

VTX-A8 と VTX-B18 の 6/2 対向のグランドスタック隣に、床置きで SRX918S を 2 発ずつ置き、SRX906LA × 2 はスタンド立てでサイドに配置しました。



グランドスタックされた VTX-A8/B18 と SRX918
※ Narciss Presents 「漆黑 Fes.」 埼玉会館

SRX900 Series と VTX-A Series の組み合わせは、音色がとても似ていて、SRX918S の音量も VTX-B18 に引けを取らないので、システムとしてとても合わせやすかったです。

また VTX と SRX 共通だと思うのですが、ハイボックスだけをあとから角度調整できますよね。ほかのラインアレイにはない特長だと思うのですが、とても使いやすいです。スタックした後に音を出してみて、そこから角度を決めることができるのは大きな強みです。

<ハイボックスの角度調整について>

SRX900 Series は、専用ベースプレート (SRX906LA BP) を使用してサブウーファー上部に SRX906LA を最大 6 台スタッキングすることができます。また、スタッキング後は、ベースプレートを調整することでサブウーファーの向きはそのまま、SRX906LA はスタックしたまま左右の振り角を調整することができます。



——最後にひとことお願いします。

VRX900 Series のように、スタンド立てやスタックが簡単にできるようなスピーカーを待っていたので、SRX900 Series にはとても満足しています！ 2/1 対向のシステムではスタンドで高さを上げられること、またひとりでも組むことができるという点が決め手となって "SRX906LA" に決めました。

本日はお忙しい中お時間いただき、ありがとうございました！

主要な納入機材

機材	ブランド名	製品名
パワード・ラインアレイ・スピーカー	JBL PROFESSIONAL	SRX906LA
パワード・サブウーファー	JBL PROFESSIONAL	SRX918S

株式会社 OverTheClip

〒335-0005 埼玉県蕨市錦町 3-5-9
 電話番号 (事務直通) : 070-8958-4524
 Mailinfo@over-c.co.jp
<https://www.overtheclip.com/>